

平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■共同研究 5	公益目的事業 16
主査名	鹿島 茂 中央大学理工学部教授	
研究テーマ	長寿社会を支える交通ビジョンの作成	
研究の目的：		
本研究は過去 2 年間の検討を発展させ、現在出現しつつある高齢者が急増している時代、そして高齢者の増加が落ち着き年齢構成が釣り鐘状になる時代への変化の時代に、高齢者が自らの希望に従って移動する選択肢を持つことが可能である実現可能な交通の姿とそのために必要な方策を描くことを試みた。具体的には①高齢者の交通行動の特性の把握、②高齢者を対象とした交通対策の日本・韓国の比較、③長寿社会での交通の姿の作成の 3 点について検討を進めた。		
研究の経過（4 月～3 月）：		
本年は 5 回の研究会を行った。第 1 回から第 4 回までは、国際航空輸送、国際海運輸送、電気自動車を活用した町づくり、気候変動とビジネスについて、専門家の方の話を伺い、運輸部門での国際化の動向、電気自動車・自動運転等の新技術をビジネスとしてまちづくりに適用している最新の動向についての理解を深めた。研究会とは別に、韓国からの研究者が来日した機会をとらえ、一部の研究会メンバーが参加した議論の場を設け日本と韓国の高齢社会への交通面での対応姿勢について意見交換し、相違点と類似点を整理した。 第 5 回の研究会では、研究会メンバー全員から本年度の研究成果として取りまとめる内容についてのメモを提出してもらい、それを基に研究成果として取りまとめる内容を整理した。		
研究の成果（自己評価含む）：		
本年度の研究成果を目的で述べた具体的内容に沿って述べる。 ① 高齢者の交通行動を見る場合、高齢者を 1 グループとして見るのではなく、年齢、性別、世代、で分けることが重要であること、交通行動は、少なくとも外出率、発生トリップ数、目的構成の 3 側面から見ていくことが重要であること、交通行動の変化は、就業の有無、健康の状態、世代（働くことに対する考え方等を表すと考えた）に影響を受けていると考えられることを、データを用いて示した。 ② 日本と韓国の高齢者に対する交通対策の比較を、制度・法律、施策・対策の 2 面から行いその差を明らかにした。差は、韓国の高齢化は、日本と比較し水準では 15 年程度の差があるものの進展速度は日本より早いこと、韓国での高齢化による交通問題は、現在は地方の農村部を中心に発生していること、このためもあり国民に対し国として提供すべき交通サービスの水準についての議論がなされているという高齢者の交通を取り巻く状況の違いが大きく影響していると考えられることを示した。 ③ 長寿社会での交通の姿として考えられる姿を地域特性に対応して複数作成し、これらの実現に必要なとなる費用等の試算に加え、制度の変更等の必要性について整理した。さらに現在の日本の基礎自治体を対象に作成した長寿社会での交通対策を導入しようとした時、基礎自治体をどのような属性で分類しておくことが適切であるのかを示した。		
今後の課題：		
本研究の成果を有用なものにしていくためには、具体的な都市（基礎自治体）について適切と考えられる交通対策とその実現のための費用等について検討することが必要と考える。		